

## I これまでの多摩の歩み

- 明治 26（1893）年に、西多摩・南多摩・北多摩の三郡が神奈川県から東京府に移管された。移管後の多摩は、鉄道網の整備や大学等の移転、織物産業の隆盛などをもとに、徐々に都市化が進行していった。
- その後、戦後の高度成長期に、鉄道沿線を中心に爆発的な人口増加と急激な都市化が進み、多摩地域の人口は、昭和 30（1955）年の 100 万人から昭和 50（1975）年には 300 万人へと急増していった。
- このような人口急増への対応などを目的として大規模団地の建設が進み、多摩ニュータウンの開発などが進められた。また、区部や京浜工業地帯からの工場移転も活発になり、大規模工場などの集積が進んでいった。
- 一方で、急激な都市化の進展に対して行政サービスが追いつかず、区部との間に道路、下水道などの都市基盤整備をはじめ住民生活の利便性の面で様々な差（三多摩格差）が生じてきたことから、都と市町村が共同し、格差解消の取組を進めていった。
- その後、都は、平成 13（2001）年に、多摩地域の「発展の可能性」に着目し、個性や独自性を伸ばした「自立と連携」による主体性を持った発展を目指すため、『多摩の将来像 2001』を策定した。
- この将来像に基づき、都は、平成 15（2003）年の『多摩アクションプログラム』をはじめ、『多摩リーディングプロジェクト』、『多摩振興プロジェクト』等を順次策定し、多摩振興に向け様々な施策を推進してきた。
- 現在、多摩地域は東京全体の人口の約 3 分の 1 に当たる 400 万人を超える人口を擁している。また、多くの大学や研究機関、高度な基盤技術を有する中小企業なども集積し、東京の活力を力強く支えている。
- しかしながら、多摩地域は、次に掲げるような状況の変化が見込まれるなど、大きな転換期を迎えつつある。